



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	アスペルガー症候群・高機能自閉症における「感覚過敏・鈍麻」の実態と支援に関する研究：本人へのニーズ調査から (fulltext)
Author(s)	高橋, 智; 増淵, 美穂
Citation	東京学芸大学紀要. 総合教育科学系, 59: 287-310
Issue Date	2008/2/29
URL	http://hdl.handle.net/2309/89177
Publisher	東京学芸大学紀要出版委員会
Rights	

アスペルガー症候群・高機能自閉症における 「感覚過敏・鈍麻」の実態と支援に関する研究

—— 本人へのニーズ調査から ——

高橋 智*・増 渕 美 穂**

特別支援科学講座***

(2007年9月28日受理)

キーワード：アスペルガー症候群，高機能自閉症，感覚過敏，感覚鈍麻，ニーズ調査

1. はじめに

1. 1 問題の所在

近年、アスペルガー症候群や高機能広汎性発達障害（自閉症）と診断された本人・当事者の手記が数多く出版され、彼らが抱えている感覚の問題について徐々に関心が向けられつつある。アスペルガー症候群の当事者で翻訳家として活躍するニキ・リンコおよび作家の藤家寛子（2004）は、その対談集の中で「自閉は身体障害である」と述べ、例えば「雨やシャワーが痛い」「髪や爪を切ると痛い」といった触覚の過敏さ、「プールに入る前の消毒が怖い」「東京はどこに行っても食べ物のにおい」といった嗅覚の過敏さ、「視覚がオーバーフローを起こす」「音を全部平板に拾う」「トマトやピーマンのような単色のものは気持ち悪くて食べられない」といった視聴覚の過敏さなどを挙げている。同じくアスペルガー症候群当事者のグニラ・ガーランド（2000）は「偏食」の問題に関して、「歯の感覚過敏により噛むのが苦痛」といった別の理由から、食べられない要因を示している。

このように「アスペルガー症候群・高機能広汎性発達障害（自閉症）」（以下、アスペルガー症候群等と略記）の当事者は、通常感覚とは異なる「身体感覚」を持ちながらも、その状態を「普通」と思い込んでいるゆえに、彼らの有する感覚過敏および感覚鈍麻や「身体感覚」の問題はこれまでほとんど明らかにされてこなかった。ま

たアスペルガー症候群等は、その障害のもつ独特の困難が理解されにくく、「頑張れば普通になれる」「怠けている」「先生や親が甘い」などの認識が依然として払拭されず、本人の抱える困難は「わがまま」「自分勝手」などと誤解されやすい。そうしたことが新たに不適応・問題行動などの二次的障害を引き起こしていると思われる。

例えば内田・杉山（2005）の調査では小児センターを受診した被虐待児童の実に26%が広汎性発達障害であり、その9割以上が高機能群であることを明らかにした。周囲との協調が著しく困難なために虐待の高リスクになることや、虐待症例の中には少なからぬ親子症例も存在し、母親が同じ問題を抱えているときネグレクトが生じやすいことなどを報告している。高機能広汎性発達障害は乳幼児健診での早期発見や鑑別が困難であり、就学後に学校不適応という状態になって初めて医療機関を受診することが多い（小枝：2002）。友達関係が緊密になってくる小学校の中学年以降に孤独感や孤立感が強まり、周囲とのちょっとしたズレがいじめの対象となって心身症や強迫神経症という形の不適応が生じてしまう。また負けず嫌いが高じてパニックを起こしてしまったり、ファンタジーの世界に入り込んでしまう症例があり、大きな問題となる。

杉山（2005b）は診断の遅れ、学校教育における迫害体験、不登校、触法行為、併存症の存在などが、ひきこもりを生じさせる重要な要因となっていると指摘し、不

* 東京学芸大学総合教育科学系・連合学校教育学研究所

** 茨城県立結城養護学校

*** 東京学芸大学（184-8501 小金井市貫井北町4-1-1）

登校外来を受診する児童に発達障害が高率を占めること、とりわけ高機能広汎性発達障害が多いことを示し、積極的な登校への働きかけや適切な教育の場の必要性を述べた。さらに青年期の触法行為を挙げ、治療や教育を誤った場合に犯罪という形で不適応が噴出する場面があることを指摘している。成人期に至って初めて高機能広汎性発達障害と診断された青年・成人は、その大多数が他の精神科疾患として誤診をされており、また二次的な精神科的障害の併発も多く、社会的な適応が不良なものが多い。内田・杉山(2005)の調査では、高機能広汎性発達障害におけるうつ病の併存は1割を越え、とくに20歳以上においては5割に達することが示された。

統合失調症の併存に関しては、むしろ統合失調症と診断され治療を受けている青年や成人の中に、高機能広汎性発達障害などの発達障害の併存例、あるいは誤診例が含まれていることのほうが大きな問題である(杉山:2005a)。自閉的ファンタジーへの没頭が小学校時代から青年期にかけて見られ、ぶつぶつ独り言を言ったり、一人で笑い出したりするので、これが統合失調症の幻聴や妄想と間違えられる。さらに現実には激しいいじめや迫害を学校で受けており、他者に対する被害念慮をもつ者は少なくない。発達障害という視点で青年・成人の精神科疾患を見直す作業が求められている。

橋本ら(2006)はアスペルガー症候群当事者を対象に聴き取り調査を行い、「集団に入ってコミュニケーションをとるのが苦手」「人の視線が気になる」「友達がほしげができない」などの対人関係の困難さ、「作業の動作が遅い」「複雑で込み入った作業が苦手」などの手先運動の不器用さなどを明らかにした。本人が記述した問題では「一度に複数のことを命令されると頭の中で処理しきれなくなり思考が停止してしまう」「人から『あれ』『これ』とかの表現で指示された事物が、わからないことがある」「臨機応変な判断が苦手」「周りの人には理解できることが、自分には理解できないことがある」などが挙げられた。また「抑うつ症状」「強迫症状」「不安症状」などの精神医学的な合併症が多いことが明白となった。

このようにいくつかの先行研究ではアスペルガー症候群における不適応・問題行動などの二次的障害の実態が徐々に明らかにされているが、それらの背景を明らかにする調査は不十分である。当事者の手記にも本人達は「普通」であると思い込んでいた感覚過敏・鈍麻が多くみられ、不適応行動の背景のひとつにはそうした「身体感覚の過敏さや鈍感さ」があるのではないかと想定される。

1. 2 研究の目的

以上の問題から本研究では、アスペルガー症候群等を

有する本人への質問紙法調査を通して、これまでほとんど不明であった感覚の過敏・鈍麻の実態を検討し、感覚の過敏・鈍麻に起因する本人の困難・ニーズおよび本人が求めている支援を具体的に明らかにすることを目的とする。

1. 3 研究の方法

①アスペルガー症候群等の本人に書かれた多数の手記を検討し、彼らがどのような感覚の過敏・鈍麻を有しているのかを把握するとともに、それをもとにして「感覚の過敏・鈍麻のチェックリスト」(330項目)、「本人が求める感覚の過敏・鈍麻への理解・支援チェックリスト」(160項目)を作成する(文末の資料・質問紙調査票:アスペルガー症候群・高機能自閉症における「感覚の過敏・鈍麻」の実態と支援に関する実態調査を参照)。

②アスペルガー症候群等の本人・当事者および発達障害支援関係団体等の協力を得ながら、アスペルガー症候群あるいは高機能広汎性発達障害(自閉症)と診断・判定され、またそうした障害認識を十分に有する本人(高校生以上の青年・成人)を対象に、質問紙法調査により「感覚の過敏・鈍麻」の実態と支援に関する実態調査を実施する。

③大学・大学院に在学して特別支援教育を専攻している、ないし発達障害に関する講義を受講している「健常」学生にも同様の質問紙法調査を行い、結果を比較・検討する。

④調査期間は2006年11月～2007年2月。アスペルガー症候群あるいは高機能広汎性発達障害(自閉症)と診断・判定され、またそうした障害認識を十分に有する本人(高校生以上の青年・成人)75名、大学・大学院に在学して特別支援教育を専攻している、ないし発達障害に関する講義を受講している「健常」学生113名から有効回答を得られた。

2. 「感覚の過敏・鈍麻のチェックリスト」の結果

2. 1 アスペルガー症候群等の本人の概要

本人の年齢を表1に示した。

表1 アスペルガー症候群等の本人の年齢 n=75人

10代	15人	20.0%
20代	23人	30.7%
30代	22人	29.3%
40代	12人	16.0%
50代	3人	4.0%

本人の性別を表2に示した。

表2 アスペルガー症候群等の本人の性別 n=75

男性	44人	58.7%
女性	31人	41.3%

本人の所属を表3に示した。所属を「在学中」「有職者」「福祉的就労者」「無職者」の四つに分類した（「有職者」の中にはアルバイト、フリーランスも含まれる）。

表3 本人の所属 n=75

在学中	20人	26.7%
有職者	29人	38.7%
福祉的就労者	9人	12.0%
無職者	17人	22.7%

2. 2 「健常」学生とアスペルガー症候群等の本人の比較

「健常」学生とアスペルガー症候群等の本人の項目別一人当たりのチェック率の比較を図1に示した。アスペルガー症候群等の本人のチェック率が顕著に高いという結果が出た（前庭感覚：12.9倍、触覚：10.5倍、固有感覚：17.6倍、視覚：20.4倍、聴覚：12.8倍、嗅覚：19.8倍、味覚：13.4倍、その他：14.8倍、平均：15.3倍）。

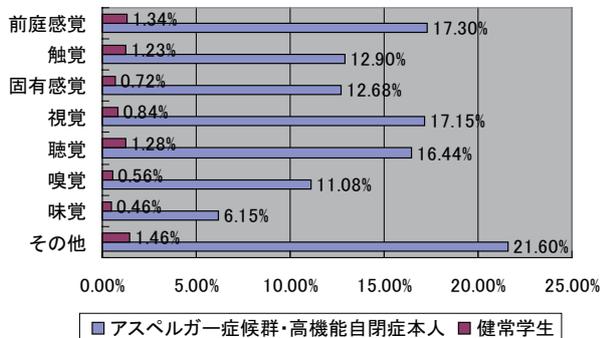


図1 「健常」学生と本人との項目別一人当たりチェック率の比較

2. 3 アスペルガー症候群等の本人の結果と考察

(1) 前庭感覚の過敏・鈍麻

前庭感覚の過敏・鈍麻の結果を図2に示した。前庭感覚の過敏・鈍麻のチェック項目全35のうち、最も多くチェックがついたのは「サッカー・バスケットボールなどの動きの激しいスポーツができない」41.3%、次いで「遊び場の遊具や遊園地のジェットコースターなどの乗り物がとても怖い」38.7%、「高いところはとても苦手である」37.3%となっている。そのほか「縄跳びの跳ぶタイミングがつかめない」18.7%、「自転車に乗るのがとても難しい」8.0%、「でんぐり返しが全くできない」6.7%、

「ボールをつくことが全くできない」5.3%と訴える人もいた。また「左右、右回り、反対回りなどに混乱する」が29.3%、「頭の位置・向きを変えると方向がわからなくなる」が25.3%にのぼり、アスペルガー症候群等の本人が方向感覚や空間認知に困難を感じていることがわかる。

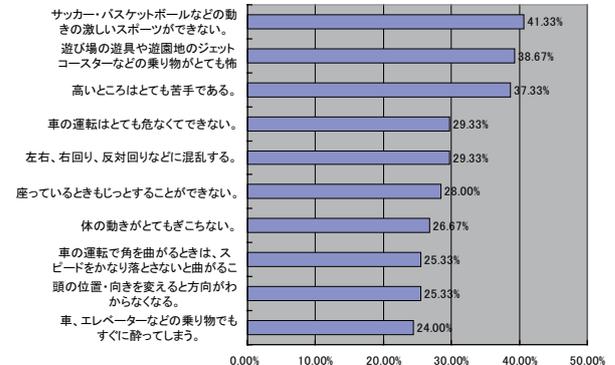


図2 前庭感覚の過敏・鈍麻の結果 n=75

(2) 触覚の過敏・鈍麻

触覚の過敏・鈍麻の結果を図3に示した。触覚の過敏・鈍麻のチェック項目全70のうち、最も多くチェックがついたのは「靴に砂が入るのがとても我慢できない」53.3%、次いで「靴の中で靴下のひだが寄っているととても不快」38.7%、「他人にある程度以上近づかれると、とても不快」37.3%、「人に触れられるのが大変苦手」33.3%であった。「靴に砂が入る」ことや「靴下のひだが寄っている」ことは、多くの人が不快に感じることであるが、アスペルガー症候群等の本人の感じている「不快」「我慢できない」の程度は通常よりもはるかに高いことが推測される。

注目すべきは「他人にある程度以上近づかれると、とても不快」「人に触れられるのが大変苦手」「列に並ぶことがとても苦手」ということであり、例えば「人に触れられた」ときの過剰な反応が、周囲との人間関係を築く上での大きな妨げになりかねない。「列に並ぶ」ことは日常よくあることであり、とくに学校では順番を守った

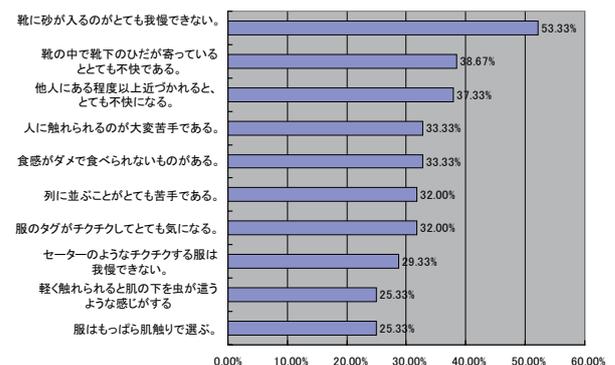


図3 触覚の過敏・鈍麻の結果 n=75

り待ったりする場面が多いが、「列に並ぶ」ことができない子どもが周囲の友だちとトラブルになってしまうことが考えられる。なお比較的少数ではあるが「雨やシャワーが痛い」8.0%、「汗がちくちく痛い」8.0%、「扇風機などの風が痛い」5.3%、「髪の毛を切るのが痛い」2.7%、「つめを切るのが痛い」1.3%など、通常ではあまりみられない感覚の過敏も存在する。

(3) 固有感覚の過敏・鈍麻

固有感覚の過敏・鈍麻の結果を図4に示した。固有感覚の過敏・鈍麻のチェック項目全43のうち、最も多くチェックがついたのは「飛んでくるボールはとても怖い」45.3%、次いで「よく他人にぶつかったり、つまづいたりする」37.3%、「よく物を落とす」33.3%であった。「飛んでくるボールはとても怖い」のほかにも「テニスのラケットにボールを当てることはとても難しい」28.0%、「ボールを投げることができない（全く違う方向に投げてしまう）」28.0%、「ボールを受けることが全くできない」28.0%など、運動を苦手とする訴えが多く挙げられた。

さらに「水などをこぼさずに運ぶことがとても難しい」22.7%、「水などをこぼさずに注ぐことがとても難しい」21.3%、「靴ひもを結ぶのがとても難しい」13.3%、「ファスナーの付いた服を着るのにとても時間がかかる」8.0%など、体の動きのぎこちなさや手先の不器用さを訴える人も多い。また「自分の体の感覚がときどきわからなくなってしまう」22.7%、「つばがうまく飲み込めない」8.0%、「食べ物を噛むのにとても苦勞する」6.7%、「食べ物を飲み込むのがとても難しい」6.7%、「くしゃみがうまくできない」5.3%など、周囲からはなかなか理解されにくい独特の感覚があることが明らかとなった。

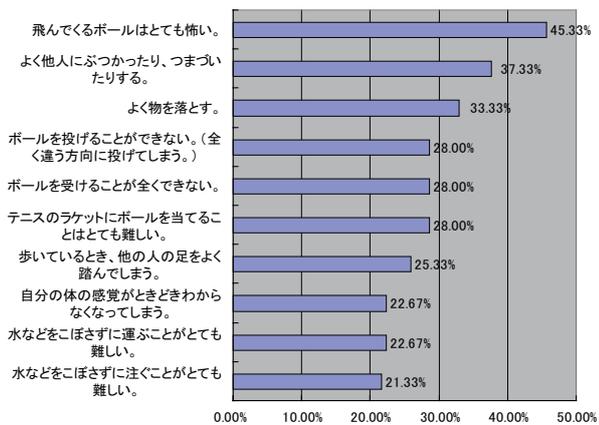


図4 固有感覚の過敏・鈍麻の結果 n=75

(4) 視覚の過敏・鈍麻

視覚の過敏・鈍麻の結果を図5に示した。チェック項目全43のうち、最も多くチェックがついたのは「苦手な

色の服は着られない」38.7%、次いで「苦手な柄の服は着られない」36.0%であった。「へトへトに疲れていると刺激がとても強く感じられる」34.7%、「すれ違おうとして人におつかることがある」も33.3%にのぼった。そのほか「蛍光灯が瞬くのが見える」21.3%、「テレビやパソコンの画面がチカチカする」16.0%、「大気中の粒子が見える」24.0%など、通常では見えないものが見えて苦勞している様子が見えがえる。

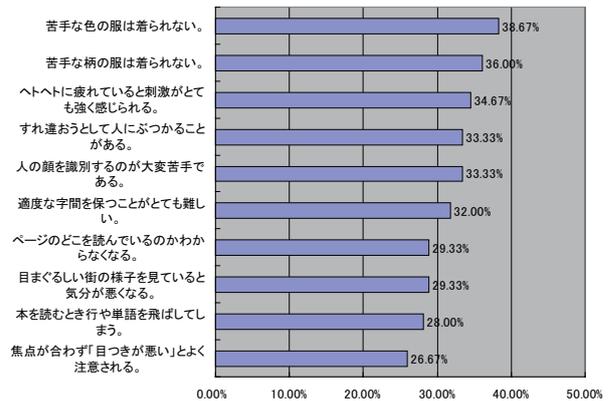


図5 視覚の過敏・鈍麻の結果 n=75

(5) 聴覚の過敏・鈍麻

聴覚の過敏・鈍麻の結果を図6に示した。聴覚の過敏・鈍麻のチェック項目全60のうち、最も多くチェックがついたのは「突然の音にとっても弱い」46.7%、次いで「似た発音をよく聞き間違える」42.7%、「大きな音にとっても弱い」38.7%という結果であった。「似た発音をよく聞き間違える」ために、相手に何度も聞きなおしたり、勘違いをしたりして、周囲との誤解・軋轢も生じることが考えられる。また日常的に「突然の音」や「大きな音」に過剰に反応し、それが大きなストレスになっている可能性もある。そのほか「スーパーやデパートのBGMがとても気になってしまう」29.3%、「人混みの騒音にとっても耐えられない」29.3%、「蛍光灯のノイズがとても気に

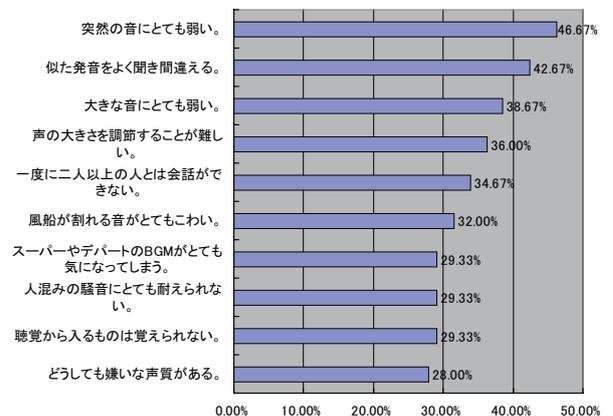


図6 聴覚の過敏・鈍麻の結果 n=75

なる」25.3%、「近所の生活音がいやでも入ってきてしまう」20.0%という結果が出た。

通常、多くの人が聞き流していたり、気にならなかったりする周囲の音が、アスペルガー症候群等の本人にとっては聞き流せない、気にせずにはいられない音になっていることがわかる。他にも「電話のベルの音」17.3%、「掃除機の音」14.7%、「ドライヤーの音」9.3%、「バイクや車のエンジン音」9.3%など、日常生活でよく耳にする音に対しても我慢できない状態であることが明らかとなった。

(6) 嗅覚の過敏・鈍麻

嗅覚の過敏・鈍麻の結果を図7に示した。チェック項目全16のうち、最も多くチェックがついたのは「特定の香水・アフターシェーブローションなどの香りが我慢できない」29.3%、次いで「化粧品のおいがとても苦手である」20.0%であった。香水・アフターシェーブローションや化粧品といった一般的に「いい香り」と考えられているものが、アスペルガー症候群等の本人にとっては苦痛になることがわかる。また「体育館や体育用具室のおいがとても苦手」「接着剤や絵の具などの図工用品のおいがとても苦手」10.7%、「給食のおいで気分がとても悪くなる」9.3%であったが、この結果から、体育や図工あるいは給食を嫌がる子どもがいた場合、その理由が「におい」である可能性も考えられる。

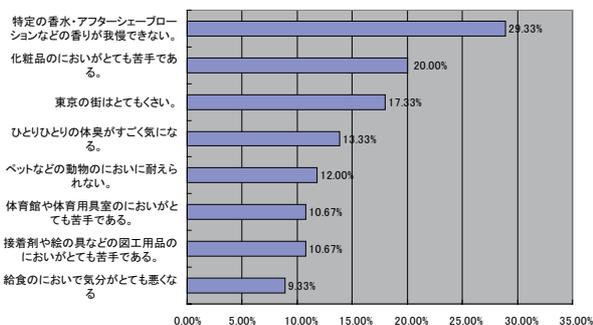


図7 嗅覚の過敏・鈍麻の結果 n=75

(7) 味覚の過敏・鈍麻

味覚の過敏・鈍麻の結果を図8に示した。味覚の過敏・鈍麻のチェック項目全13のうち、最も多くのチェックがついたのは「偏食がとても多い」20.0%、「食べたことのないものはとてもこわい」も17.3%いた。偏食の理由は様々であろうが、触覚の過敏・鈍麻では「食感がダメで食べられないものがある」33.3%、固有感覚の過敏・鈍麻では「食べ物を噛むのにとっても苦勞する」6.7%、視覚の過敏・鈍麻では「トマトやピーマンなど単色・原色の食べ物は、その色がとても気持ち悪くて食べることが

できない」2.7%、嗅覚の過敏・鈍麻では「揚げ物のおいにとっても耐えられない」6.7%である。少数ではあるが「調味料を全く受け付けない」2.7%、「自分の家以外のレストランや他の家の料理の味は全く受け付けない」1.3%と訴える本人もおり、食べ物にとっても苦勞している様子がうかがえる。

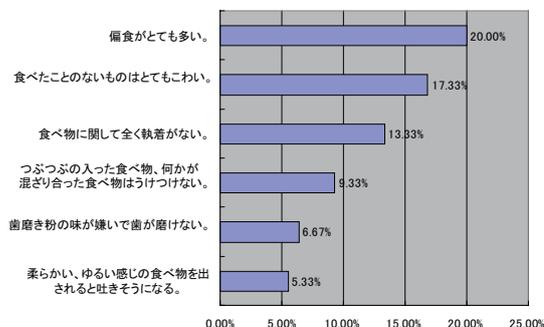


図8 味覚の過敏・鈍麻の結果 n=75

(8) その他の感覚の過敏・鈍麻

その他の感覚の過敏・鈍麻の結果を図9に示した。その他の感覚の過敏・鈍麻のチェック項目全50のうち、最も多くのチェックがついたのは「人との共同作業は負担が大きすぎる」46.7%、次いで「掃除をするのがとても苦手である」45.3%、「朝起きてもしばらく動けない」44.0%という結果になった。「掃除をするのがとても苦手」については、体の動きのぎこちなさや手先の不器用さが掃除に対する苦手意識や困難さを高めていることが、これまでに検討してきたことから想定できる。

ここで注目すべき点は「体温調節ができない」22.7%、「うまく汗がかけない」が20.0%もいるということである。「汗をかく」「体温調節する」などは通常は自動的に行われていることであり、このことで苦勞を感じることはない。他にも比較的少数ではあるが「空腹を感じない」

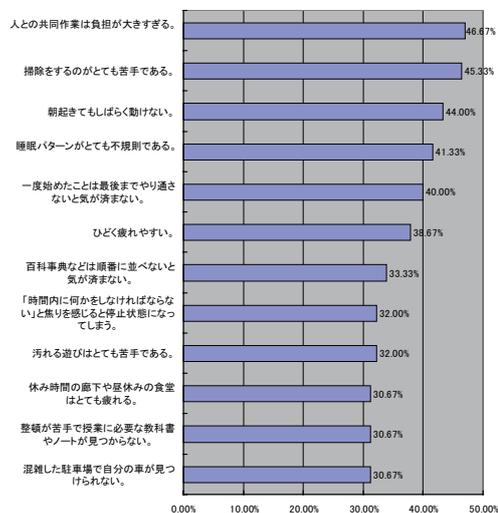


図9 その他の感覚の過敏・鈍麻の結果 n=75

9.3%, 「眠気を感じない」9.3%, 「トイレに行くタイミングがわからない」6.7%, 「お風呂から出るタイミングがわからない」4.0%などにチェックがついていた。この結果から、通常は当たり前のようにこなしていることが、アスペルガー症候群等の本人にとってはまったくそうではなく、とても苦労して行っている様子がうかがえる。

なお所属による項目別一人当たりのチェック率の比較を図10に示した。ここでは所属を「在学中」「有職者」「福祉的就労者」「無職者」の四つに分類し比較した。「有職者」の中にはアルバイト、フリーランスも含む。多くの項目で「無職者」のチェック率が一番高く、反対に「有職者」のチェック率は相対的に低くなっている。また男女の項目別一人当たりのチェック率の比較を図11に示した。味覚以外の項目において女性が男性の2倍以上のチェック率になったが、女性のほうが感覚の過敏・鈍麻が強い傾向にあるのかどうかについては、さらに検討が必要である。

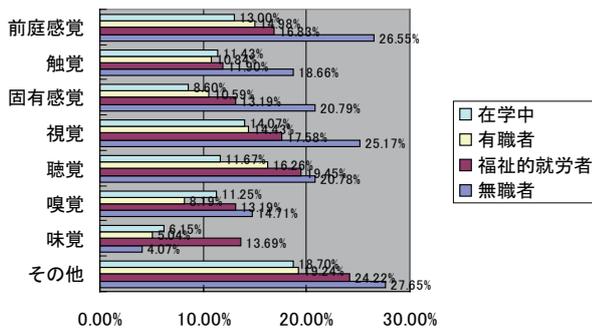


図10 所属別の項目別一人当たりチェック率

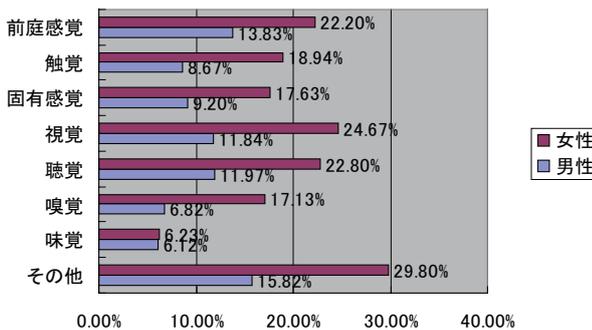


図11 男女別の項目別一人当たりチェック率

3. 「本人が求める感覚の過敏・鈍麻への理解・支援チェックリスト」の結果

最初に「健常」学生とアスペルガー症候群等の本人の感覚過敏・鈍麻への理解・支援の項目別一人当たりのチェック率の比較を図12に示したが、「健常」学生とアスペルガー症候群等の本人ではチェック率に顕著な差がある(口腔活動:5.9倍, 前庭・固有感覚:7.4倍, 触覚:

4.5倍, 視覚:9.7倍, 聴覚:17.6倍, 嗅覚:15.3倍, 食べること:15.6倍, その他:6.4倍, 平均:10.3倍)。

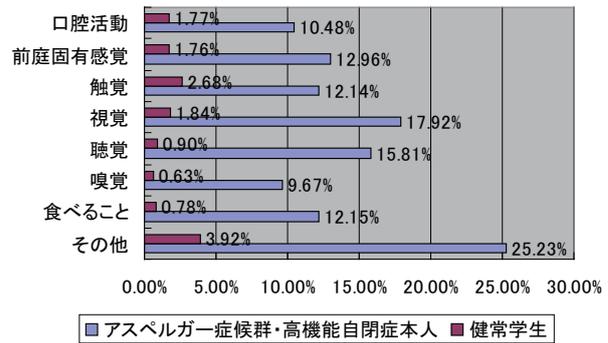


図12 「健常」学生と本人との項目別一人当たりチェック率の比較

(1) 口腔活動面の理解・支援

口腔活動面の理解・支援の結果を図13に示した。口腔活動面の理解・支援のチェック項目全22のうち、「コーヒーやお茶を飲むととても落ち着くので、そうさせてほしい」が41.3%と最も多く、次いで「ゆっくりと深く深呼吸すると落ち着く」24.0%、「甘いお菓子を食べても落ち着くので、そうさせてほしい」21.3%であった。

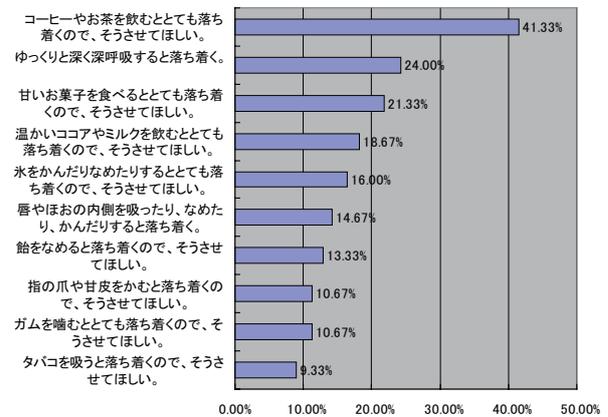


図13 口腔活動面の理解・支援 n=75

(2) 前庭・固有感覚面の理解・支援

前庭・固有感覚面の理解・支援の結果を図14に示した。前庭・固有感覚面の理解・支援のチェック項目全25のうち、最も多くチェックがついたのは「体を微妙に揺らすと落ち着くので、そのことを気にしないでほしい」「いすの上で座り直したり、もぞもぞすると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい」25.3%であり、次いで「あぐらをかくと、とても落ち着く」24.0%であった。

(3) 触覚面の理解・支援

触覚面の理解・支援の結果を図15に示した。触覚面の理解・支援のチェック項目全37のうち、最も多

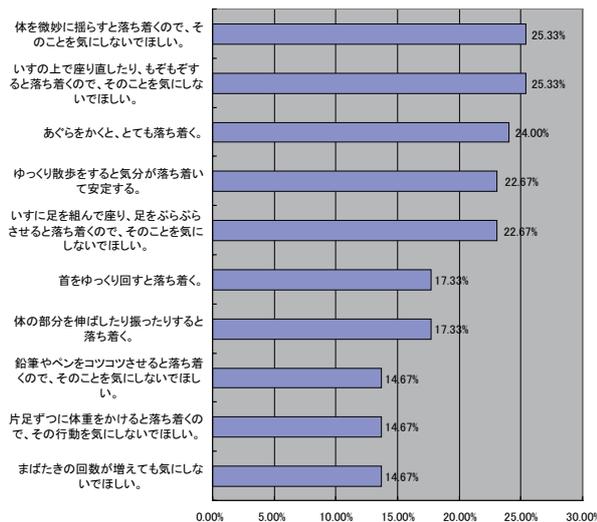


図14 前庭・固有感覚面の理解・支援 n=75

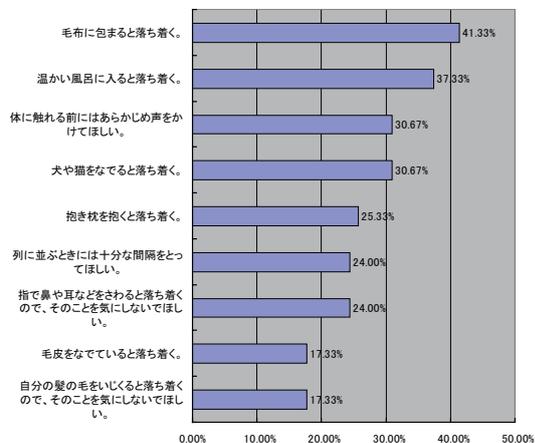


図15 触覚面の理解・支援 n=75

くチェックがついたのは「毛布に包まると落ち着く」41.3%、次いで「温かい風呂に入ると落ち着く」37.3%であり、「体に触れる前にはあらかじめ声をかけてほしい」30.7%、「列に並ぶときには十分な間隔をとってほしい」も24.0%にのぼった。

(4) 視覚面の理解・支援

視覚面の理解・支援の結果を図16に示した。視覚面の理解・支援のチェック項目全25のうち、最もチェックが多かったのは「1人で出かけるときは詳しい地図がほしい」40.0%、次いで「本を読むととても落ち着く」37.3%という結果になった。

(5) 聴覚面の理解・支援

聴覚面の理解・支援の結果を図17に示した。チェック項目全21のうち「何度も聞きなおしても怒らないでほしい」が49.3%で最も多く、次いで「独り言を言ったり鼻歌を歌ったりすると落ち着くので、そのことを気にし

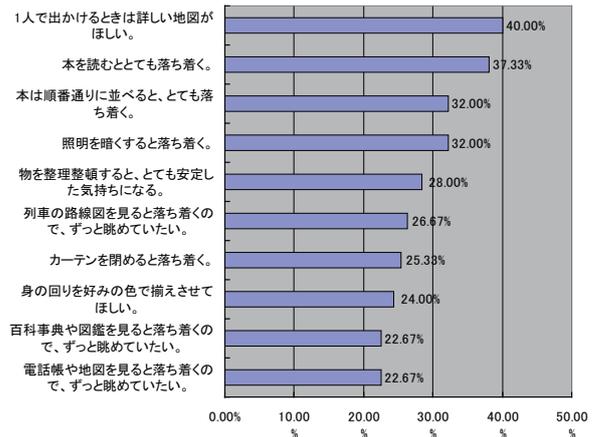


図16 視覚面の理解・支援 n=75

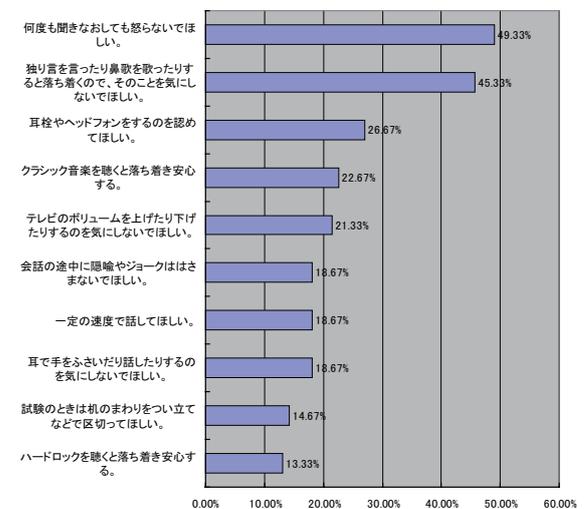


図17 聴覚面の理解・支援 n=75

ないでほしい」が45.3%であった。

(6) 嗅覚面の理解・支援

嗅覚面の理解・支援の結果を図18に示した。チェック項目全8のうち「お気に入りの香りを持ち歩きたい」が20.0%で最も多く、次いで「周りの人に香水・アフターシェーブローションなどをつけるのをやめてもらいたい」が16.0%という結果になった。

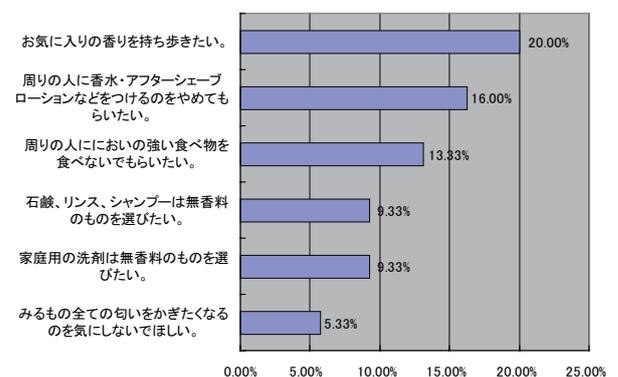


図18 嗅覚面の理解・支援 n=75

(7) 食べることへの理解・支援

食べることへの理解・支援の結果を図19に示した。食べることへの理解のチェック項目全9のうち、最も多くチェックがついたのが「『早く食べなさい』とせかすのはやめてほしい」28.0%、次いで「自分にあった温度に食べ物を温めたい」25.3%であった。

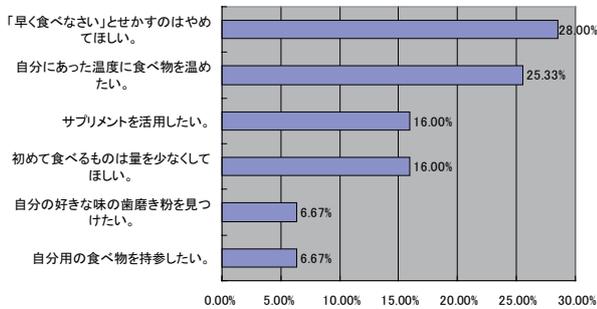


図19 食べることへの理解・支援 n=75

(8) その他の理解・支援

その他の結果を図20に示した。その他のチェック項目全13のうち、「家の中に『自分だけの空間』があると落ち着き安定する」が64.0%と圧倒的に多かった。次いで「職場に『自分だけの空間』があると落ち着き安定する」34.7%、「何でもメモすることで安心できる」33.3%という結果になった。

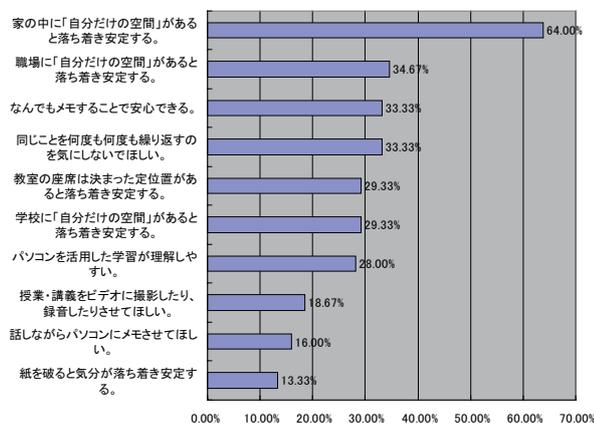


図20 その他の理解・支援 n=75

4. 感覚過敏・鈍麻への支援に関する検討

4.1 前庭感覚の過敏・鈍麻への支援

前庭感覚の過敏・鈍麻では、体の動き、姿勢、バランス、体の左右の調整などの困難が明らかになった。具体的には「サッカー・バスケットボールなどの動きの激しいスポーツができない」41.3%、「縄跳びの跳ぶタイミングがつかめない」18.7%、「自転車に乗るのがとても難し

い」8.0%、「でんぐり返しが全くできない」6.7%、「ボールをつくことが全くできない」5.3%などが挙げられた。

この結果から、例えば学校の体育等に求められるからだの動きは、アスペルガー症候群等の子どもにとっては難しい動きであることがわかる。動きの激しいスポーツができなかったり、遊び場の遊具が怖かったりするために、友達の輪の中に入れなかったり、入れてもらえなかったりすることが考えられる。このような子どもを「運動のできない子」「友達の輪の中に入れられない子」として見るのではなく、できることや得意なことを生かせる場面を設定したり、ルールや教材教具を改善したりするなど、すべての子どもが積極的に参加できるような授業作りや休み時間の過ごし方の工夫が必要であろう。

4.2 触覚の過敏・鈍麻への支援

触覚の過敏・鈍麻では、通常なら感じないほどのものでも、実際に身体的不快を顕著に感じるようになった。学校では「粘土やのりなどベタベタしたものはとても気持ち悪くて全くさわれない」(10.7%)のために図工の時間にパニックを起こしたり、「他人にある程度以上近づかれるととても不快になる」(37.3%)「人に触れられるのが大変苦手である」(33.3%)「列に並ぶことがとても苦手である」(32.0%)のために友達とトラブルになったりする可能性がある。また球技も「ドッジボールや野球のボールの感触がすごく苦手な持っていない」ために参加できないことなどが考えられる。例えば学校等で友達とのトラブルを回避するには「体に触れる前にはあらかじめ声をかける」(30.7%)、「列に並ぶときには十分な間隔をとる」(24.0%)などの配慮が有効である。

また「指で鼻や耳などをさわると落ち着くのでそのことを気にしないでほしい」(24.0%)「自分の髪の毛をいじくと落ち着くのでそのことを気にしないでほしい」(17.3%)などの理解を求める声も多く挙がっているが、これを「落ち着きがない」「変な癖」などとして一方的に制止するのではなく、気持ちの安定をはかることを優先して、その行動を認めることが求められよう。

4.3 固有感覚の過敏・鈍麻への支援

固有感覚の過敏・鈍麻では、体の動きのぎこちなさや手先の不器用さが明らかになった。具体的には「水などをこぼさずに運ぶことがとても難しい」(22.7%)「水などをこぼさずに注ぐことがとても難しい」(21.3%)「靴ひもを結ぶのがとても難しい」(13.3%)「ファスナーの付いた服を着るのにとても時間がかかる」(8.0%)などが挙げられた。体の動きのぎこちなさや手先の不器用さによる失敗を責めるのではなく、ゆっくり丁寧に時間をかけて指導

を積み重ね、できることを一つずつ増やしていくことが重要である。

また本人の求める支援では「体を微妙に揺らすと落ち着くのでそのことを気にしないでほしい」(25.3%)「片足ずつに体重をかけると落ち着くのでその行動を気にしないでほしい」(14.7%)「ぴょんぴょん飛び跳ねると落ち着くのでそのことを気にしないでほしい」(13.3%)などが多く挙げられた。これらの行動は一見奇異な行動に思われるが、本人にとっては気持ちを安定させるために重要な意味を持っている。一方的に制止するのではなく、気持ちの安定をはかることを優先して、その行動を認めることが求められよう。

4. 4 視覚の過敏・鈍麻への支援

視覚の過敏・鈍麻では、アスペルガー症候群等の本人が学習面でも様々な困難を抱えていることが明らかとなった。「ページのどこを読んでいるのかわからなくなる」(29.3%)「本を読むとき行や単語を飛ばしてしまう」(28.0%)など読むことに関する困難、「適度な字間を保つことがとても難しい」(32.0%)「黒板を書き写すのとても苦勞する」(20.0%)など書くことに関する困難を訴える声が多かった。読むことに関する困難では、テキストのページ数をこまめに指示する、あわてずゆっくり読むことを指導する、書くことに関する困難では、ます目のあるノートを使わせる、ノートを取る時間を十分に確保する配慮などが必要である。また気持ちがイライラしてきたときに「列車の路線図」(26.7%)「電話帳や地図」(22.7%)「水槽」(9.3%)「スタンドグラス」(9.3%)など、それぞれが見ると落ち着くものをあらかじめ用意しておくことで気持ちの安定を図り、パニックを防ぐことが可能になる。

4. 5 聴覚の過敏・鈍麻への支援

聴覚の過敏・鈍麻では、音への過剰な反応が大きなストレスになっている可能性が明らかになった。日頃から「似た発音をよく聞き間違える」(42.7%)ことが多く、「何度も聞きなおしても怒らないでほしい」(49.3%)という理解・支援を求める声がたくさん挙げられた。また「突然の音」(46.7%)や「大きな音」(38.7%)に弱いと訴える人も多く、学校ではクラスの子どもに対して「大きな音を出すときには声をかけてからにする」「話しかけるときの声の大きさに気をつける」などの理解・啓発が必要であると考えられる。

本人にとっては授業中でも集中できないほど音で溢れている。周りの子どもの「ヒソヒソ話そのものが大音量で詳細に耳に入って」きたり(21.3%)、窓の外から聞こ

えてくる「バイクや車のエンジン音」(9.3%)に耐えられなかったり、隣の席の子の「字を書くときに鉛筆が紙の上でこすれる音」(9.3%)が耳に障ったり、「蛍光灯のノイズ」(25.3%)がとても気になったりする。このような状態では授業に集中することが難しい。「試験のときは机のまわりをつい立てなどで区切る」(14.7%)「いすの脚に布などを巻いて床をこする音がしないようにする」(10.7%)などの配慮・支援が求められている。

4. 6 嗅覚の過敏・鈍麻への支援

嗅覚の過敏・鈍麻では、香水・化粧品など一般的に「いい香り」と考えられているものが、アスペルガー症候群等の本人にとっては苦痛になることもあることが明らかとなった。「周りの人に香水・アフターシェーブローションなどをつけるのをやめてもらいたい」(16.0%)という訴えも多く、「香り」にも気を配る必要がある。学校では「体育館や体育用具室のにおいがとても苦手である」(10.7%)、「接着剤や絵の具などの図工用品のにおいがとても苦手である」(10.7%)のために、体育館や図工室に行くことを嫌がったり、授業そのものを拒否したりする可能性が考えられる。また「給食のにおいで気分がとても悪くなる」(9.3%)と訴える人もいた。「お気に入りの香りを持ち歩く」(20.0%)ことや別室で給食を食べることを認めるような配慮が必要である。

4. 7 味覚の過敏・鈍麻への支援

味覚の過敏・鈍麻では、食に大きな偏りがあることが明らかになった。具体的には「野菜はどうしても食べられない」(2.7%)「柔らかい、ゆるい感じの食べ物を出されると吐きそうになる」(5.3%)「つぶつぶの入った食べ物、何かが混ざり合った食べ物はうけつけない」(9.3%)などが挙げられた。本人たちは「自分に合った温度に食べ物を温めたい」(25.3%)「初めて食べるものは量を少なくしてほしい」(16.0%)「サプリメントを活用したい」(16.0%)「初めて食べるものは細かく刻んでほしい」(4.0%)などの支援を求めており、学校の給食時などに無理強いしない、あるいは弁当の持参を認めるなどの丁寧な配慮が求められている。

4. 8 その他の感覚の過敏・鈍麻への支援

その他の感覚の過敏・鈍麻では、アスペルガー症候群等の本人が様々な困難・ニーズを抱えていることが明らかになった。「人との共同作業は負担が大きすぎる」(46.7%)「人とのかわわりは演技に頼っている」(29.3%)「外出が苦手ですぐに体調を崩す」(18.7%)などの結果に見られるように、周囲との関わりに大きな負担を感じ

ている人が多い。そのことは「家の中」(64.0%)「職場」(34.7%)「学校」(29.3%)に「自分だけの空間」を求めている人が多いことからもうかがえる。学校では「教室の座席は決まった定位置があると落ち着き安定する」(29.3%)と答えた人が多く、安心できる空間・座席の確保が求められる。

そのほかにも「体温調節ができない」(22.7%)「うまく汗がかけない」(20.0%)ことに困難を感じている人も多く、空調設備の完備などの特段の配慮が必要である。とくにまだ自分の体について認識できていない子どもに関しては、適切な衣服を身につけるような指導や室内の温度・湿度を適度に保つような環境づくりへの配慮が重要である。

5. まとめと今後の課題

本研究では、アスペルガー症候群等を有する本人への質問紙法調査を通して、これまでほとんど不明であった感覚過敏・鈍麻の実態を検討し、感覚過敏・鈍麻に起因する本人の困難・ニーズおよび本人が求めている支援を具体的に明らかにしてきた。

「感覚の過敏・鈍麻のチェックリスト」および「本人が求める感覚の過敏・鈍麻への理解・支援チェックリスト」の結果を、「健常」学生とアスペルガー症候群等の本人の項目別一人当たりのチェック率を比較すると、アスペルガー症候群等の本人のチェック率が顕著に高いという結果が出た(感覚の過敏・鈍麻:15.3倍, 感覚の過敏・鈍麻への理解・支援:10.3倍)。また一方で、アスペルガー症候群等の本人のチェック率は一番高い人で61.5%、一番低い人で0.9%という結果となり、個人差が大きいことも明らかになった。

さらに「本人が求める感覚の過敏・鈍麻への理解・支援チェックリスト」全体のチェック率も、一番高い人で62.5%、一番低い人で0%という結果となり、求める理解・支援にも大きな個人差があると言える。そして味覚以外のすべての項目において女性が男性の2倍以上のチェック率になり、感覚の過敏・鈍麻において性差がある可能性が推測できる。

アスペルガー症候群等の本人は通常感覚とは異なる「身体感覚」を持っており、これまで周囲から「わがまま」「自分勝手」などと誤解されていたことが、実はアスペルガー症候群等の特有の感覚の過敏・鈍麻にも大きく起因しているのではないかと推察される。

さて今後の研究課題であるが、本調査で用いた調査票に対して、調査に協力された本人から「～が我慢できない」「～が耐えられない」がどの程度ならチェックすれ

ばいいのかの判断が難しかったという声が寄せられた。調査票の改良を重ね、アスペルガー症候群等の本人に適した選択肢を用意する必要がある。

また今回の調査では、各地を飛び回って調査に尽力したつもりであるが、アスペルガー症候群等の本人からの回答は75件にとどまった。関係団体の専門家からは一定の評価も得ているが、さらに多くの回答を回収し、結果の統計的な信頼性を高める必要がある。さらに今回は調査対象をアスペルガー症候群・高機能広汎性発達障害(自閉症)に限定したため、他の発達障害の検討がなされておらず、今後の課題といえる。

なお今回の調査は、あくまでも感覚過敏・鈍麻の全般的な傾向性を示したに過ぎず、一人ひとりの支援に対しては、個別の困難・ニーズに即した丁寧な対応が必要であることを最後に申し添えたい。

附 記

本調査にご協力いただいたアスペルガー症候群・高機能広汎性発達障害(自閉症)をかかえる本人・当事者および保護者、発達障害支援関係団体、東京学芸大学・早稲田大学の学部・大学院の学生の皆様に対して、記して心より感謝申し上げます。本人・当事者の方々からは、文書で、口頭で、メールで切々と抱えておられる感覚過敏・鈍麻に起因する困難・ニーズを伺ったが、その問題の深刻さには背筋が伸びる思いであった。今回の調査は端緒に過ぎず、引き続き本人・当事者の問題解決・支援につながるものへと展開できるように精進していく所存である。なお本研究は、2006-2007年度科学研究費基盤研究(B)(研究代表:高橋)および明治安田こころの健康財団「第42回(2006年度)研究助成」(研究代表:高橋)等による研究成果の一部である。

文 献

- 伊豆倉哲(2007) 感覚の過敏性や鈍さが影響—高機能自閉症などによる困難の背景に—高橋東京学芸大教授らが調査、『内外教育』第5741号, pp.4-5, 時事通信社.
- 泉流星(2003)『地球生まれの異性人—自閉症者として、日本に生きる—』花風社.
- 泉流星(2005)『僕の妻はエイリアン—「高機能自閉症」との不思議な結婚生活—』新潮社.
- ウェンディ・ローソン(ニキ・リンコ訳)『私の障害、私の個性。』花風社.
- 内田志保・杉山登志郎(2005) 高機能広汎性発達障害へ

- の支援, 『教育と医学』第53巻12号, pp.1146-1155.
- Uchino Tomoyuki, Takahashi Satoru (2007) Difficulties and Needs of Upper Secondary School Students with Mild Developmental Disabilities in School Life: A Survey of Students with Mild Developmental Disabilities Including Mild Intellectual Disabilities, *The Japanese Journal of Special Education, Vol.44 No.6, pp.507-521, The Japanese Association of Special Education.*
- Uchino Tomoyuki, Takahashi Satoru (2007) Difficulties and Needs in School Life of Upper Secondary School Students with Mild Developmental Disabilities Including Mild Intellectual Disabilities from the Viewpoint of Their Guardians Survey, 『学校教育学研究論集』第16号, pp.17-34, 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科.
- 落合みどり (2003) 『十人十色なカエルの子ー特別なやり方が必要な子どもたちの理解のためにー』東京書籍.
- グニラ・ガーランド (ニキ・リンコ訳, 2000) 『ずっと「普通」になりたかった。』花風社.
- グニラ・ガーランド (中川弥生訳, 2003) 『あなた自身のいのちを生きてーアスペルガー症候群, 高機能自閉症, 広汎性発達障害への理解ー』クリエイツかもがわ.
- グニラ・ガーランド (熊谷高幸監訳, 石井バークマン麻子訳, 2007) 『自閉症者が語る人間関係と性』東京書籍.
- ケネス・ホール (野坂悦子訳, 2001) 『ぼくのアスペルガー症候群ーもっと知ってよぼくらのことをー』東京書籍.
- 高森明 (2007) 『アスペルガー当事者が語る特別支援教育ースロー・ランナーのすすめー』金子書房.
- 小枝達也 (2002) 心身の不適応行動の背景にある発達障害, 『発達障害研究』第23巻4号, pp.258-266.
- 自閉症支援マニュアル編集委員会編 (2004) 『自閉症の世界へようこそー自閉症支援マニュアルー』自閉症サポート研究会.
- 真行寺英子・英司 『言葉のない子と, 明日を探したころー自閉児と母, 思い出を語り合うー』花風社.
- スーザン・トンブソン・ムーア (テラー幸恵訳, 2005) 『アスペルガー症候群への支援ー小学校編ー』東京書籍.
- ステイブン・ショア (森由美子訳, 2004) 『壁のむこうへー自閉症の私の人生ー』学習研究社.
- 杉山登志郎編著 (2002) 『アスペルガー症候群と高機能自閉症の理解とサポート』学習研究社.
- 杉山登志郎編著 (2005) 『アスペルガー症候群と高機能自閉症ー青年期の社会性のためにー』学習研究社.
- 杉山登志郎 (2005a) 発達障害と統合失調症, 『こころの科学』第120号, pp.29-35.
- 杉山登志郎 (2005b) ひきこもりと高機能広汎性発達障害, 『こころの科学』第123号, pp.36-43.
- 杉山登志郎 (2007) 『子ども虐待という第四の発達障害』学習研究社.
- 高橋 智 (2007) アスペルガー症候群・高機能自閉症調査からー感覚過敏・鈍麻ー個人差考慮し支援を, 『日本教育新聞』第5664号, 日本教育新聞社, 2007年9月10日付.
- 月文 瞭 (2006) 『自閉症者からの紹介状ー色と形と言葉に映した私の世界ー』明石書店.
- テンプル・グランディン, マーガレットM.スカリアーノ (カニングハム久子訳, 1994) 『我, 自閉症に生まれて』学習研究社.
- テンプル・グランディン (カニングハム久子訳, 1997) 『自閉症の才能開発ー自閉症と天才をつなぐ環ー』学習研究社.
- トーマス・A・マッキーン (ニキ・リンコ訳, 2003) 『ぼくとクマと自閉症の仲間たち』花風社.
- ドナ・ウィリアムズ (河野万里子訳, 1993) 『自閉症だったわたしへ』新潮社.
- ドナ・ウィリアムズ (河野万里子訳, 1996) 『こころという名の贈り物ー続・自閉症だったわたしへー』新潮社.
- 成沢達哉 (2004) 『My フェアリー・ハートーわたし, アスペルガー症候群。ー』文芸社.
- ニキ・リンコ (2005) 『俺ルール! 自閉は急に止まらない』花風社.
- ニキ・リンコ (2007) 『自閉っ子におけるモンダイな想像力』花風社.
- ニキ・リンコ, 藤家寛子 (2004) 『自閉っ子, こういう風にできてます!』花風社.
- ニキ・リンコ, 仲本博子 『自閉っ子, 深読みしなけりゃうまくいく』花風社.
- 橋本創一ほか (2006) 成人期アスペルガー症者の不適応症状と支援方法に関する研究, 『東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要』第2集, pp.1-8.
- 服巻智子 (2006) 『自閉っ子, 自立への道を探る』花風社.
- 服巻智子編著 (2006) 『自閉症スペクトラムー青年期・成人期のサクセスガイドー』クリエイツかもがわ.
- 東田直樹・作/井村禮子・絵 (2004) 『自閉というぼくの世界』エスコアール出版部.

- 東田直樹・東田美紀 (2005) 『この地球 (ほし) にすんでいる僕の仲間たちへ—12歳の僕が知っている自閉の世界—』 エスコアール出版部.
- 東田直樹 (2007) 『自閉症の僕が跳びはねる理由—会話のできない中学生がつづる内なる心—』 エスコアール出版部.
- ビルガー・ゼリーン (平野卿子訳, 1999) 『もう闇のなかにはいたくない—自閉症と闘う少年の日記—』 草思社.
- 藤家寛子 (2004) 『他の誰かになりたかった—多重人格から目覚めた自閉の少女の日記—』 花風社.
- 藤家寛子 (2005) 『あの扉のむこうへ—自閉の少女と家族, 成長の物語—』 花風社.
- ブレンダ・スミス・マイルズ, ジャック・サウスウィック (富田真紀監訳, 萩原拓・嶋垣ナオミ訳, 2002) 『アスペルガー症候群とパニックへの対処法』 東京書籍.
- ブレンダ・スミス・マイルズ, ダイアン・エイドリアン (吉野邦夫監訳, テーラー幸恵・萩原拓訳, 2006) 『アスペルガー症候群への支援—思春期編—』 東京書籍.
- ブレンダ・ボイド (落合みどり訳, 2006) 『アスペルガー症候群の子育て200のヒント』 東京書籍.
- ブレンダ・スミス・マイルズ, キャサリン・タブスコット・クック, ナンシー・E・ミラー, ルーアン・リナー, リサ・A・ロビンズ (萩原拓訳, 2004) 『アスペルガー症候群と感覚過敏性への対処法』 東京書籍.
- 森口奈緒美 (2002) 『平行線—ある自閉症者の青年期の回想—』 ブレーン出版.
- 森口奈緒美 (2004) 『変光星—自閉の少女に見えていた世界—』 花風社.
- (無署名) アスペルガー, 高機能自閉症で調査—感覚過敏・鈍麻が顕著—高橋・東京学芸大教授らのグループ, 『日本教育新聞』 第5662号, 日本教育新聞社, 2007年8月27日付.
- 山岸 裕・石井哲夫編著 (1988) 『自閉症克服の記録—書くことによって得たもの—』 三一書房.
- リアン・ホリデー・ウィリー (ニキ・リンコ訳, 2002) 『アスペルガー的人生』 東京書籍.
- ルーク・ジャクソン (ニキ・リンコ訳, 2005) 『青年期のアスペルガー症候群—仲間たちへ, まわりの人へ—』 スペクトラム出版社.

【資料】質問紙調査票

アスペルガー症候群・高機能自閉症における「感覚の過敏・鈍麻」 の実態と支援に関する実態調査

東京学芸大学総合教育科学系特別支援科学講座

高橋 智 研究室

ご回答者について

(注：本調査はアスペルガー症候群・高機能自閉症についての十分な障害認識のあるご本人の方々（高校生以上の青年・成人の方）を対象に実施されるものです。)

1. 年齢：() 歳
2. 性別： 女性 男性
3. 所属：①在学中（高校、専修学校、高等専門学校、短期大学、大学、大学院、その他）、
②有職者（職種： ）、③無職者、④その他（ ）
4. アスペルガー症候群・高機能自閉症と診断・判定を受けた機関：①医師・病院、②児童相談所、③教育委員会の教育センター・教育相談所、④その他（ ）
診断・判定を受けたときの年齢：() 歳

*以下のチェックリストでは十分に該当する項目の□の部分をチェックしてください（例：□、□→■）。

I. 感覚の過敏・鈍麻のチェックリスト

1. 前庭感覚の過敏・鈍麻

- 遊び場の遊具や遊園地のジェットコースターなどの乗り物がとても怖い。
- 繰り返し物を落とすことがやめられない。
- 車、エレベーターなどの乗り物ですぐに酔ってしまう。
- バスは揺れが激しいのでとても疲れる。
- 揺りいすに座ると吐き気がする。
- 座っているときもじっとすることができない。
- 赤ちゃんを揺すってあげることができない。
- 高いところはとても苦手である。
- 階段の上り下りがすごく苦手である。
- 高いところや遊園地のジェットコースターなどの乗り物も全く怖くない。
- 頭の位置・向きを変えると方向がわからなくなる。
- 左右、右回り、反対回りなどに混乱する。
- 左右の手足をバランスよく動かせない。
- 屈んだり、背伸びしたりするのがとても苦痛である。
- お風呂場で立ったまま下半身を洗うときなど、バランスがとれない。
- 湯船から出たり入ったりするときにバランスを失う。
- 洗面台に前屈みになるのが大変難しい。
- 自分の足が地面から離れることがとても不安である。
- 足が床につかない椅子に座るのはとてもこわい。
- トイレに座るのがとてもこわい。
- サッカー・バスケットボールなどの動きの激しいスポーツができない。
- 走ることに何かを始めたり止めたりすることが大変難しい。
- ボールをつくことが全くできない。
- でんぐり返しが全くできない。
- スキップが全くできない。
- 縄跳びの跳ぶタイミングがつかめない。
- 体の動きがとてもぎこちない。
- 自転車に乗るのがとても難しい。
- 車の運転はとても危なくてできない。
- 車の運転で角を曲がるときは、スピードをかなり落とさないと曲がることができない。
- ドアが開いているところをうまく通り抜けられない。

- 自動ドアをうまく通り抜けることができない。
- 回転自動ドアをうまく通り抜けることができない。
- 混んだ道で人の波をぬって歩くことができない。
- その他 ()

2. 触覚の過敏・鈍麻

- 雨やシャワーが痛い。
- 湯船の中で水がはねるのをとても我慢できない。
- 皮膚が濡れる感触がとても嫌いである。
- 顔が濡れるのがとても苦手である
- 汗がちくちく痛い。
- 裸足で濡れた所を歩けない。
- 裸足で芝生の上を歩けない。
- ボディブラシは特定の感触・強さのものでないと使えない。
- 石鹸で体を洗うと、ちくちく痛く感じる。
- 体を洗うタオルがとても痛く感じる。
- 空調・空気清浄機など空気の流れを起こす機械の近くにはいられない。
- 人工的な空気(冷房や暖房)はとても苦手である。
- 扇風機などの風が痛い。
- 髪の毛を切るのが痛い。
- 髪の毛を洗うと痛いので、洗髪がとても苦手である。
- 髪の毛をとかすと痛い。
- 髪の毛が皮膚に当たるのが耐えられない。
- 帽子をかぶるのが苦手である。
- つめを切るのが痛い。
- 感覚刺激を求め、爪先を血が出るまで噛んでいる。
- 耳かきをするのがこわい。
- 歯ブラシがとても痛い。
- 歯ブラシが唇に触れると吐きそうになる。
- 食器が口や手に当たる感触がとても苦手である。
- 食感がダメで食べられないものがある。
- ものを噛むことがとても苦痛である。
- なんでも口に入れてたくなる。
- 便座やトイレットペーパーなどお尻に触れるものが嫌い。
- 服はもっぱら肌触りで選ぶ。
- 特定の洗剤で洗った服でないと着られない。
- ネックレスなどのアクセサリはつけられない。
- ハイネックの服は首がとてもチクチクするので着られない。
- 首がとてもチクチクするのでマフラーは絶対にしない。
- セーターのようなチクチクする服は我慢できない。
- タイトなジーンズは耐えられない。
- ジーンズや化学繊維でできた「硬くてごわごわした」服を着ることに耐えられない。
- スカートををはくと脚と脚が触れ合う感触が嫌い。
- 皮膚をこする服の縫い目の感触で吐き気を催してしまう。
- 服のタグがチクチクしてとても気になる。
- 服のえりぐりがチクチクするのが耐えられない。
- 服の縫い目で肌がこすれるのが耐えられない。
- 靴の中で靴下のひだが寄っているととても不快である。
- ストッキングはとても履けない。
- 服を着ないで裸でいるほうが好きである。
- 感覚刺激を求め、とても小さいサイズの服を着る。
- 感覚刺激を求め、手首・足・腰などにきついゴムのはいった服(体に跡がつくくらいのもの)を着る。
- 掛け布団は肌触りや重さがあわないと鳥肌が立つ。
- 靴を履くのがとても嫌である。
- 靴に砂が入るのがとても我慢できない。
- カーテンなど不意に動くものの近くにはいられない。

- 列に並ぶことがとても苦手である。
- 人に触られるのが大変苦手である。
- 握手をすることが大変苦手である。
- 抱擁されるのはとても我慢できない。
- ほほなどに触れられたり、キスされることはとても我慢できない。
- 軽く触られると肌の下を虫が這うような感じがする。
- どのような触れられ方でも痛いと感じる。
- 他人にある程度以上近づかれると、とても不快になる。
- 正しい鉛筆の持ち方が全くできない。
- 手のひらでものを触ることがとても不快である。
- ドッジボールや野球のボールの感触がすごく苦手で、持ってられない。
- シャボン玉が肌に当たってはじける感触に耐えられない。
- 硬貨の感触がすごく苦手である。
- 粘土やのりなどベタベタしたものはとても気持ち悪くて、全くさわれない。
- 食べ物が顔や手に付いていても全く気づかない。
- やけどをしても気づかないことがある。
- 怪我をしても気づかないことがある。
- 注射針を刺されても痛みを感じない。
- 熱を出しても自分では気づかない。
- その他 ()

3. 固有感覚の過敏・鈍麻

- よく物を落とす。
- チューブのふたを取ることができない。
- 水などをこぼさずに運ぶことがとても難しい。
- 水などをこぼさずに注ぐことがとても難しい。
- 靴ひもを結ぶのがとても難しい。
- ファスナーの付いた服を着るのにとっても時間がかかる。
- 更衣に人の何倍も時間がかかり、体育の時間にしばしば遅れてしまう。
- 作業が楽になるようにうまく姿勢を変えることができない。
- ジャングルジムにうまく登ることができない。
- いつも使っている階段でも用心深く上る。
- テニスのラケットにボールを当てることはとても難しい。
- 飛んでくるボールはとても怖い。
- ボールを受けることが全くできない。
- ボールを投げることができない。(全く違う方向に投げてしまう。)
- 自転車を漕ぐときに足がペダルからすぐに外れてしまう。
- 自転車のブレーキをかける力加減がわからない。
- 右、左、右、左と意識して足を踏み出さないと歩けないことがよくある。
- よく他人にぶつかったり、つまづいたりする。
- 通るところにあるものをすべて踏みつけて通ってしまう。
- 歩いているとき、他の人の足をよく踏んでしまう。
- 足の裏が地面から浮いている気がすることがある。
- 下を見ないといすに座れない。
- 鏡を見ないと正しくシャツが着られない。
- 頭からシャツ・セーターをかぶって着ると、腕を通すところが見つけられない。
- トレーナーなどをうまく脱ぐことができない。
- 鏡を見ないと歯ブラシがうまく口に入らない。
- 鏡を見ないと髪の毛がとかせない。
- 箸が使うことがとても難しい。
- 肉をナイフで切り分けることがとても難しい。
- 食べ物を噛むのにとっても苦勞する。
- 食べ物を飲み込むのがとても難しい。
- くしゃみがうまくできない。
- つばがうまく飲み込めない。
- 寝返りをすることが難しい。

- 自分の体の感覚がときどきわからなくなってしまう。
- 自分には背中がないと思っていた。
- 傘をさしていると、腕と傘の区別ができなくなる。
- 自分の体がなくなることがある。
- 自分の体の部位についてははっきりつかめない。
- 筋力がさわめて弱く（低緊張状態）、腹筋運動や腕立て伏せがまったくできない。
- 階段の上り下りがとても苦手である。
- 関節がヒリヒリ感じて、ずっとなめていないといられない。
- その他 ()

4. 視覚の過敏・鈍麻

- 一度にたくさんものを見すぎると何も見えなくなる。
- 目まぐるしい街の様子を見ていると気分が悪くなる。
- 突然カメラのフラッシュをたかれると目が見えなくなる。
- 人の顔を識別するのが大変苦手である。
- 人の顔を見ると目の開閉や目玉の動きが見えてしまい、とても苦痛である。
- 人の顔を見ると白目の血管ばかり見えてしまい、とても気持ち悪い。
- 焦点が合わず「目つきが悪い」とよく注意される。
- 大勢の人を見ると顔と顔が混ざり合って見える。
- 人の姿はいつも一部分だけ浮遊しており完全ではない。
- 物も人もすごいスピードで流れて輪郭がつかめない。
- 家の中は色彩の洪水のように見える。
- 蛍光灯が瞬くのが見える。
- スーパーやデパートの照明はとてもまぶしく苦痛である。
- スーパーの棚に並ぶ色とりどりの商品は刺激が強すぎる。
- 点滅するネオンの光は刺激が強すぎる。
- テレビやパソコンの画面がチカチカする。
- テレビ画面が目まぐるしく変わることにとっても耐えられない。
- 大気中の粒子が見える。
- 足が隠れるような長いスカートをはいたりコタツに足を入れると、自分の足がなくなっているように感じる。
- 苦手な色の服は着られない。
- 苦手な柄の服は着られない。
- パステルカラーの部屋にはいられない。
- 一部のパーツ・部分に焦点を当てた絵を描く。
- 些細な違いを些細とは感じない。(例：いちご1粒1粒が別のものに見える)
- トマトやピーマンなど単色・原色の食べ物は、その色がとても気持ち悪くて食べることができない。
- タイ米は長さが違い、その長さがとても気持ち悪くて食べられない。
- 黒板を書き写すのにとっても苦勞する。
- 黒板に赤や黄色で書かれた文字はとても見えにくい。
- 線に沿って字を書くことがすごく難しい。
- 適度な字間を保つことがとても難しい。
- 好みの形の単語、嫌いな形の単語がある。
- 活字体のアルファベットで書かれている単語は一字の文字としてか読み取れない（筆記体ならば文字のつながり、単語のかたまりを理解できる）。
- ページのどこを読んでいるのかわからなくなる。
- 本を読むとき行や単語を飛ばしてしまう。
- ジェスチャーを見ると音声についていけなくなる。
- スポーツ観戦では動く観客に頭がくらくらする。
- 曲線や丸みを帯びた形は気持ちが悪い。
- ドアノブをつかみ損なって扉にぶつかることがある。
- すれ違おうとして人にぶつかることがある。
- 店で商品を取ろうとして棚にぶつかることがある。
- ヘトヘトに疲れていると何も見えなくなる。
- ヘトヘトに疲れていると刺激がとても強く感じられる。
- その他 ()

5. 聴覚の過敏・鈍麻

- 聴覚から入るものは覚えられない。
- 抑揚を伴うことはとても理解しにくい。
- 話す速度が変わると、とても理解しにくくなる。
- 似た発音をよく聞き間違える。
- 話し相手が外国語を話し始めたかのように聞こえることがある。
- 一度に二人以上の人とは会話ができない。
- 鼻音の多すぎる単語は耳が痛くなる。
- 音を全部平板に拾ってしまう。
- 突然の音にとっても弱い。
- 大きな音にとっても弱い。
- 大きな音を聞くとまるで誰かに引っ搔かれているように感じる。
- ヒソヒソ話そのものが大音量で詳細に耳に入ってくる。
- 静かであればあるほど苦痛であり、小さい音を痛く感じる。
- 赤ちゃんの泣き声がとても苦手である。
- 女性の高い声はとても聞き取りにくい。
- 男性の低い声はとても聞き取りにくい。
- どうしても嫌いな声質がある。
- 電話の声ははずんでしまい、全く聞き取れない。
- 電話しながらメモを取ることができない。
- 無線の音は聞き取りにくく、情報が拾えない。
- 大勢の人の声が、調子がはずれたように聞こえ出す。
- 人混みの騒音にとっても耐えられない。
- 音が反響する空間にいることに耐えられない。
- 犬が吠える声がとてもこわい。
- 不協和音に耐えられない。
- 楽器の音はすごく苦手である（楽器名：_____）。
- 掃除機の音が我慢できない。
- ドライヤーの音がとても苦手である。
- 電子レンジの「チン」という音が怖くて食べ物が温められない。
- バイクや車のエンジン音に耐えられない。
- 船の汽笛の音がとても苦手である。
- 電車の音がとても苦手である。
- バスの騒音に耐えられずバスに乗れない。
- 電話のベルの音がとても苦手である。
- 目覚まし時計の甲高い電子音がとても苦手である。
- 紙袋を破裂させる音がとてもこわい。
- 風船が割れる音がとてもこわい。
- ガラスの割れる音がとてもこわい。
- 救急車や消防車などのサイレンの音がとても苦手である。
- 火災報知器の音がとてもこわい。
- 字を書くときに鉛筆が紙の上でこすれる音が耳に障る。
- 硬貨の音がとても苦手である。
- 椅子を引く音が我慢できない。
- 食器を重ねる音が我慢できない。
- スプーンが食器に当たる音に耐えられない。
- ものを食べる際に「くちゃくちゃ」という音を立てられることが耐えられない。
- 蛍光灯のノイズがとても気になる。
- 換気扇の音がとても苦手である。
- スーパーやデパートのBGMがとても気になってしまう。
- 近所の生活音がいやでも入ってきてしまう。
- 市街で決まった時刻に鳴らす時報がとても不快である。
- 歩くときにナイロンの生地がこすれる音がとても不快である。
- 歩くときにコードデュロイの生地がこすれる音がとても不快である。
- ビニールのテーブルクロスを拭く音がとても苦手である。
- ヘトヘトに疲れていると極端に聞こえなくなる。

- ヘトヘトに疲れているとすべてが聞こえてしまう。
- 声の大きさを調節することが難しい。
- 黙っていると自分には何も聞こえていないような気がする。
- いつものニュースキャスターと違うと、ニュースがとても聞き取りにくい。
- その他 ()

6. 嗅覚の過敏・鈍麻

- 消毒液のにおいにとっても耐えられない。
- 東京の街はとともくさい。
- 給食のにおいで気分がとても悪くなる。
- 揚げ物のにおいにとっても耐えられない。
- 掃除用の洗剤のにおいがとても苦手である。
- 接着剤や絵の具など図工用品のにおいがとても苦手である。
- 体育館や体育用具室のにおいがとても苦手である。
- ひとりひとりの体臭がすごく気になる。
- ベットなどの動物のにおいに耐えられない。
- 特定の香水・アフターシェーブローションなどの香りが我慢できない。
- 化粧品のにおいがとても苦手である。
- 石鹸、リンス、シャンプーなどのにおいがとても苦手である。
- スーパーの肉や魚の売り場には臭いがいやで近づけない。
- ご飯の炊けるにおいで、お米の研ぐ回数がいつもと違うと感じてしまう。
- 見るもの全てのにおいを嗅がずにはいられない。
- その他 ()

7. 味覚の過敏・鈍麻

- 偏食がとても多い。
- 食べ物に関して全く執着がない。
- 調味料を全く受け付けない。
- 食べたことのないものはとてもこわい。
- お米の研ぎ方が一回少なくとも気づいてしまう。
- 野菜はどうしても食べられない。
- 乳製品はどうしても食べられない。
- 柔らかい、ゆるい感じの食べ物を出されると吐きそうになる。
- つぶつぶの入った食べ物、何かが混ざり合った食べ物はうけつけない。
- ほとんどの食べ物はひどい舌ざわりである。
- 歯磨き粉の味が嫌いで歯が磨けない。
- 自分の家以外の、レストランや他の家の料理の味は全く受け付けない。
- その他 ()

8. その他の感覚の過敏・鈍麻

- 初めての場所に行くのはとてもこわい。
- 外出が苦手ですぐに体調を崩す。
- 人とかかわりは演技に頼っている。
- しょっちゅう迷子になる。
- 混雑した駐車場で自分の車が見つげられない。
- ショッピングセンターの出口が見つからなくなる。
- ビルの廊下で迷子になる。
- 家の近所でも自宅に帰れなくなることがある。
- 学校内で自分の教室がわからなくなる。
- 汚れる遊びはとても苦手である。
- 気温の変化を我慢できない。
- うまく汗がかけない。
- 汗が出にくいので熱中症によくある。
- 体温調節ができない。
- 探し物ができない。
- 掃除をするのがとても苦手である。

- 字がとても下手である（ミミズが違ったような字しか書けない）。
- リズムに合わせて手を叩くことができない。
- 人と歩調をあわせて歩くことができない。
- 寝るのを忘れることがある。
- 眠気を感じない。
- 睡眠パターンがとても不規則である。
- 朝起きてもしばらく動けない。
- トイレに行くタイミングがわからない。
- お風呂から出るタイミングがわからない。
- ご飯を食べるのを忘れることがある。
- 空腹を感じない。
- 食べ物の種類をほとんど知らない。
- 義務のように毎日食べている食物がある。
- 食物アレルギーを抱えている。
- イライラすることがあると手が出てしまう。
- かゆみに悩まされる。
- 平板な話し方をする。
- 「切りのいい数字」にこだわってしまう。
- 百科事典などは順番に並べないと気が済まない。
- 左右対称にこだわってしまう。
- 人との共同作業は負担が大きすぎる。
- 一度始めたことは最後までやり通さないと気が済まない。
- 見ても聞いても数字がまったく覚えられない。
- 放っておくとずっと動いている。
- ひどく疲れやすい。
- 疲れているときは声も出なくなってしまう。
- 疲労がどのようなものかわからない。
- ひどい肩こりではじめて疲労を感知できる。
- 「時間内に何かをしなければならぬ」と焦りを感じると停止状態になってしまう。
- 整頓が苦手で授業に必要な教科書やノートが見つからない。
- 授業のたびに教師や教室が変わることがとても疲れる。
- 休み時間の廊下や昼休みの食堂はとても疲れる。
- 起きてすぐのときは生まれたばかりみたいな気がしてこわい。
- その他（)

II. 本人が求める感覚の過敏・鈍麻への理解・支援チェックリスト

1. 口腔活動面の理解・支援

- 飴をなめると落ち着くので、そうさせてほしい。
- ガムを噛むととても落ち着くので、そうさせてほしい。
- 氷をかんだりなめたりするととても落ち着くので、そうさせてほしい。
- コーヒーやお茶を飲むととても落ち着くので、そうさせてほしい。
- 温かいココアやミルクを飲むととても落ち着くので、そうさせてほしい。
- 炭酸飲料を飲むととても落ち着くので、そうさせてほしい。
- 甘いお菓子を食べるととても落ち着くので、そうさせてほしい。
- すっぱい漬け物を食べるととても落ち着くので、そうさせてほしい。
- ほおの内側を舌でなめると落ち着く。
- 唇やほおの内側を吸ったり、なめたり、かんだりすると落ち着く。
- 鉛筆やペンをかむと落ち着くので、そうさせてほしい。
- コーヒーを混ぜる棒をかむと落ち着くので、そうさせてほしい。
- ストローをかむと落ち着くので、そうさせてほしい。
- 指の爪や甘皮をかむと落ち着くので、そうさせてほしい。
- ボタン、スエットのひも、襟などをかむと落ち着くので、そうさせてほしい。
- 髪の毛をかむと落ち着くので、そうさせてほしい。
- タバコを吸うと落ち着くので、そうさせてほしい。

- 仕事をしながら口笛を吹くと落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- ゆっくりと深く深呼吸すると落ち着く。
- ザラザラしたものを奥歯ですりつぶすと落ち着く。
- 歯ざりすると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- その他 ()

2. 前庭・固有感覚面の理解・支援

- 高いところから跳び下りると落ち着く。
- ブランコを思いっきり高く揺らすと落ち着く。
- 揺りいすで揺れると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- いすの上で座り直したり、もぞもぞすると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- いすを後ろに半分倒して腰掛けると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- いすに足を組んで座り、足をぶらぶらさせると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 正座をすると、とても落ち着く。
- あぐらをかくと、とても落ち着く。
- 体の部分を伸ばしたり振ったりすると落ち着く。
- 首をゆっくり回すと落ち着く。
- まばたきの回数が増えても気にしないでほしい。
- いきなり手をたたきだしても気にしないでほしい。
- 体を微妙に揺らすと落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 片足ずつに体重をかけると落ち着くので、その行動を気にしないでほしい。
- ぐるぐる回る遊びをすると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- つま先、かかと、足全体で踏みならすと落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- つま先立ちで歩くと落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- ジョギングをすると気分が落ち着いて安定する。
- ゆっくり散歩をすると気分が落ち着いて安定する。
- エアロビクスやダンスで体を動かすと気分が落ち着いて安定する。
- トランポリンを跳んでいると気分が落ち着いて安定する。
- 鉛筆やペンをコツコツさせると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 包丁で何かを刻むと気分が落ち着いて安定する。
- ぴょんぴょん跳びはねると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- その他 ()

3. 触覚面の理解・支援

- 自分の髪の毛をいじると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 指で鼻や耳などをさわると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 手でポケットの鍵や小銭をいじると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 毛糸の編み物の編み目に指をからませていると落ち着く。
- 鎖のネックレスを指にからませていると落ち着く。
- カーブしたものを指でなぞると安心する。
- 米や豆を袋に詰めて持ち歩くと落ち着く。
- 小麦粉を風船に詰めて持ち歩くと落ち着く。
- 温かい風呂に入ると落ち着く。
- 水の中に入ると落ち着く。
- ドライシャンプーにしてほしい。
- 木の上で太い枝に抱かれる感覚が心地良い。
- 犬や猫をなでると落ち着く。
- 毛皮をなでていると落ち着く。
- やわらかい素材のぬいぐるみを持ち歩くと落ち着く。
- 粘土をこねると落ち着く。
- シャーピングクリームで遊ぶと落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 弾力のあるボールを握るとイライラが解消できる。
- テーブルを指や鉛筆でカタカタ叩くと落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 肌をもんだり、さすったりするととても落ち着く。
- 爪や甘皮をいじると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- イヤリングやネックレスをいじると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。

- 話し中の電話のコードをいじると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 抱き枕を抱くと落ち着く。
- クッションや枕をひざの上に置いて重さを感じると落ち着く。
- 毛布に包まると落ち着く。
- 寝袋の中はとても安心できる。
- ソファのクッションの下にもぐりこむと安心する。
- ベッドの下にもぐりこむと安心する。
- 抱きしめられた圧迫感が安心できる。
- 手首、足、腰などにゴムのついているきつい服を着たい。
- 縫い目が外側になるように服を着ていても理解してほしい。
- いつも同じ洗剤で洗濯してほしい。
- 頭を打ちつけることで緊張から解放される。
- 列に並ぶときには十分な間隔をとってほしい。
- 体に触れる前にはあらかじめ声をかけてほしい。
- その他 ()

4. 視覚面の理解・支援

- カーテンを閉めると落ち着く。
- 照明を暗くすると落ち着く。
- 照明を明るくすると落ち着く。
- 部屋の電気を何度もつけたり消したりするのを気にしないでほしい。
- さまざまな色、ワット数の電球を試したい。
- サングラスをかけると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 帽子やサンバイザーをかぶると落ち着く。
- 両手をひらひらさせると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 身の回りを好みの色で揃えさせてほしい。
- 水槽を見つめると落ち着くので、いつまでも見つめていたい。
- 日の出、日の入りを眺めると落ち着くので、いつまでも見つめていたい。
- ステンドグラスを眺めると落ち着くので、いつまでも見つめていたい。
- きらきら光るものを眺めると落ち着くので、いつまでも見つめていたい。
- 電話帳や地図をみると落ち着くので、ずっと眺めていたい。
- 百科事典や図鑑をみると落ち着くので、ずっと眺めていたい。
- 列車の路線図をみると落ち着くので、ずっと眺めていたい。
- おもちゃを美しく並べると、とても落ち着く。
- 本は順番どおりに並べると、とても落ち着く。
- 物を整理整頓すると、とても安定した気持ちになる。
- 何でもペアにしたり、グループ分けしたくなり、そのことでとても落ち着く。
- 本を読むととても落ち着く。
- 本は自分で読むよりも誰かに読んでもらいたい。
- 1人で出かけるときは詳しい地図がほしい。
- 直線や直角は見ていて気持ちがよく、とても落ち着く。
- その他 ()

5. 聴覚面の理解・支援

- 耳栓やヘッドフォンをするのを認めてほしい。
- テレビのボリュームを上げたり下げたりするのを気にしないでほしい。
- 耳を手でふさいだり離したりするのを気にしないでほしい。
- クラシック音楽を聴くと落ち着き安心する。
- ハードロックを聴くと落ち着き安心する。
- ボリュームを最大にして音楽を聴くと落ち着くので、そのことを認めてほしい。
- 独り言を言ったり鼻歌を歌ったりすると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 自分の声を加工したり細工すると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 10まで数えるのを繰り返していると落ち着くので、そのことを気にしないでほしい。
- 他の人のハミングを聞くと落ち着き安心する。
- 試験のときは机のまわりをついでなどで区切ってほしい。
- にぎやかな部屋で仕事をさせてほしい。

- 話すときに抑揚をつけないでほしい。
- 一定の速度で話してほしい。
- 会話の途中で隠喩やジョークははさまないでほしい。
- 何度も聞きなおしても怒らないでほしい。
- 食器は音があまり出ないものを使わせてほしい。
- スプーンの声が気になるのでお箸を使わせてほしい。
- スプーンやフォークは木製のものを使わせてほしい。
- いすの脚に布などを巻いて、床をこする音がしないようにしてほしい。
- その他 ()

6. 嗅覚面の理解・支援

- お気に入りの香りを持ち歩きたい。
- 鼻栓をするのを気にしないでほしい。
- 家庭用の洗剤は無香料のものを選びたい。
- 石鹸、リンス、シャンプーは無香料のものを選びたい。
- 周りの人に香水・アフターシェーブローションなどをつけるのをやめてもらいたい。
- 周りの人においの強い食べ物を食べないでもらいたい。
- みるもの全ての匂いをかぎたくなるのを気にしないでほしい。
- その他 ()

7. 食べることへの理解・支援

- 自分に合った温度に食べ物を温めたい。
- 初めて食べるものは量を少なくしてほしい。
- 初めて食べるものは細かく刻んでほしい。
- 食べ物はピューレスープにした方が食べやすい。
- サプリメントを活用したい。
- 自分用の食べ物を持参したい。
- 「早く食べなさい」とせかすのはやめてほしい。
- 自分の好きな味の歯磨き粉を見つけたい。
- その他 ()

8. その他

- クローゼットの中に入り込むことを認めてほしい。
- 同じことを何度も何度も繰り返すのを気にしないでほしい。
- 鏡の前で何時間も過ごすのを気にしないでほしい。
- パソコンを活用した学習が理解しやすい。
- 紙を破ると気分が落ち着き安定する。
- 家の中に「自分だけの空間」があると落ち着き安定する。
- 職場に「自分だけの空間」があると落ち着き安定する。
- 学校に「自分だけの空間」があると落ち着き安定する。
- 教室の座席は決まった定位置があると落ち着き安定する。
- なんでもメモすることで安心できる。
- 話しながらパソコンにメモさせてほしい。
- 授業・講義をビデオで撮影したり、録音したりさせてほしい。
- その他 ()

ご協力まことにありがとうございました。

A Study of Real Conditions and Support of “Hyper-sensitivity and Insensibility” of Persons with Asperger Syndrome and High-functioning Autism

— Needs Survey of Persons with Asperger Syndrome and High-functioning Autism —

Satoru TAKAHASHI*, Miho MASUBUCHI**

*Department of Special Needs Education****

Abstract

In recent years, many notes written by persons who were diagnosed as Asperger syndrome or high-functioning pervasive developmental disorders (autism) (hereinafter referred to as Asperger syndrome and so on) have been published. This phenomenon is gradually drawing attention to problems of senses that they confront.

Although persons with Asperger syndrome and similar disorders have *body senses* that differ from normal senses, they infer such a condition as *normal*. Thereby, their problems of hypersensitivity and insensibility or of *body senses have only slightly* ever been elucidated. In addition, Asperger syndrome and similar disorders are difficult to understand because of their distinctive difficulties. For that reason, the following perceptions have still not been cast aside: “You could be normal if you tried hard.” “You are lazy.” “Teachers and parents are spoiling you.” Their problems are also apt to be misunderstood as *selfish, egoistic*, and so on. Such beliefs appear to induce newly secondary disorders, such as maladaptation and problematic behaviors.

This study is therefore intended to examine actual conditions of hypersensitivity and insensibility, which have remained poorly understood, through a questionnaire survey of persons with Asperger syndrome and similar disorders. Furthermore, we attempted to clarify difficulties and needs that are specifically caused by hypersensitivity and insensibility and the support that they demand.

The survey was conducted as follows: 1) Examining many notes written by persons with Asperger syndrome and so on, we grasped what kind of hypersensitivity and insensibility they had. Based on an examination of them, we created a “Checklist of hypersensitivity and insensibility” and a “Checklist for understandings and support for hypersensitivity and insensibility which persons with Asperger syndrome and similar disorders ask”. 2) Obtaining cooperation from persons with Asperger syndrome and similar disorders, concerned organizations supporting developmental disorders, and so on, we administered questionnaires “Survey of actual conditions and supports for hyper-sensitivity and insensibility” to persons who were diagnosed or assessed as having Asperger syndrome or high-functioning pervasive developmental disorders (autism) and recognized such disorders (youths of upper secondary school and older and adults). 3) We also administered a similar questionnaire survey to *healthy* students, who were majoring in special support education at university or graduate school or taking a class related to developmental disorders. Results were compared and examined.

The survey period was November 2006 through February 2007. We received valid responses from 75 persons who were diagnosed or assessed as Asperger syndrome or high-functioning pervasive developmental disorders (autism) and recognized such disorders (youths at upper secondary school and older and adults) and 113 “regular” students who were majoring in special support education at a university or graduate school or taking a class related to developmental disorders.

The check rates for the checklist with 330 items related to hypersensitivity and insensibility by persons with Asperger syndrome

* Ph.D., Professor of Department of Special Needs Education, School of Education, National University Corporation Tokyo Gakugei University

** Teacher of Yuki Special School for Students with Intellectual Disabilities in Ibaraki Prefecture

*** National University Corporation Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukui-kita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)

and similar disorders varied considerably from person to person: the highest was 61.5%; the lowest was 0.9%. Additionally, concerning the check rates to the checklist with 160 items about understanding and support for which they asked, the highest was 62.5% whereas the lowest was 0%. Results also clarified that great individual differences existed in understanding and support for which they asked. As understanding and support that they requested from schools and teachers, various requests were raised, such as: 1) I have problems with being touched and standing in line. Therefore, I want people to speak to me in advance before touching me and to take sufficient space when standing in line (tactile hyperaesthesia). 2) I often incorrectly interpret words with similar pronunciations. If asked to repeat themselves over and over again, I want people not to get angry (acoustic hyperaesthesia). 3) I am very afraid of what I have never eaten. Therefore, I want to eat a small amount of what I am going to eat at the first time at school lunch and so on, and to take supplements (gustatory hyperaesthesia). 4) I have a serious problem with smells, such as: gymnasiums and sports equipment rooms, art materials such as adhesives and paints, and school lunches. Because they make me sick, I want to take my favorite aroma with me (olfactory hyperaesthesia). 5) I get very relaxed when I slightly swing my body or leaning and hopping, so that I want people not to care about what I do. 6) I become comfortable and stable if a “space only for me” exists in a classroom.

We also classified the persons' current status into four groups: *at school, during employment* (including part-timers and freelancers), *supported employment in workshop*, and *out of employment*. Then we compared check rates of hypersensitivity and insensibility per person according to their status; check rates of persons *out of employment* were the highest in many items. In contrast, check rates of persons *in employment* were low. The results indicate that with or without and/or the degree of hypersensitivity and insensibility had no small effect on finding work. In addition, for all items except those related to the sense of taste, check rates of females are more than double those of males, which suggests that gender differences exist in hypersensitivity and insensibility.

This survey only illustrated an overall tendency of hypersensitivity and insensibility. Therefore, it does not fit all Asperger syndrome or high-functioning pervasive developmental disorders (autism). It also revealed that great differences are apparent among individuals. Therefore, for supporting each, it is necessary to clarify individual difficulties and needs and to support them politely.

Key words: Asperger Syndrome, High-functioning Autism, Hyper-sensitivity, Insensibility, Needs Survey